

東京人類學會誌

第 三 卷 第 二 十 二 號

明治二十年十二月

目 録

○記事	五三
第三十六會	
○談話	五五
埼玉縣横見郡黒岩村及び北吉見村横穴探究記、下篇 (坪井正五郎)	
北吉見村横穴壁面に在る古代彫刻、圖入 (坪井正五郎)	六二
相模國海老郡大磯及び山西村横穴實見記、圖入 (若林 勝邦)	六五
○雜錄	
鬼斑説 (關場不二彦)	六八
日向大隅古跡古物、圖入 (田中 芳男)	七〇
河内國千塚ヨリ出デタル陶枕、圖入 (淡 厓)	七三
削り掛けの事二件、圖入 (和田 萬吉)	七三
肥後阿蘇郡手野村塚穴、圖入 (鎌田 諧)	七四
内耳鍋の事に付きて (上田 英吉)	七五
瓶ヶ岡土偶圖解、前號石版圖の解 (淡 厓)	七七
○雜記六件	

東京人類學會

明治二十年十二月

思ひ含居りぬ

○瓶ヶ岡土偶圖解 (前號卷末ノ圖ヲ見ヨ)

淡 厓

此版ニ載スル所ノ者ハ陸奥弘前ノ會員佐藤藤氏カ描キ送
ラシタル瓦偶ノ圖ナリ其第一圖ハ正面ニシテ大サ原形ノ
如シ第二第三ハ背面及び側面ニシテ凡ソ原形三分一ノ縮
圖ナリ下澤氏ノ記文ニ云ク明治二十年五月青森縣下陸奥
國西津輕郡瓶ヶ岡村領ノ中瓶山ト云フ地ヨリ掘得タリ此
物ハ色薄黒ク鉢内ウツロニシテ其ウツロハ鉢ノ下ノ方ヨ
リ上ノ方冠ノ中マテ抜ケ通りタリ又鼻及び兩股ノ上ノ方
ニ□如此穴アリテ是ヨリ鉢内ヲ窺ヒ見ルチ得ル冠ノ左ノ
方先及び右目左脚ハ損シタレトモ他ノ一片ノ全キヲ以テ
其全鉢ヲ見ルニ足ル右ハ西津輕郡館岡村加藤氏ノ所藏ナ
リ云云

淡厓云我嘗テ瓶岡發見ノ土偶數種ヲ見タリ孰レモ奇ナ
ラサルハナシ然レトモ最モ奇ニシテ且大ナルハ此土偶
ニ過クルハナシ曩キニ義虫氏ノ出京スルヤ土偶ノ殘缺
數片ヲ齎ラセリ始メテ之ヲ見タル時ニハ其何種タルヲ

辨セサリシカ此圖ヲ見ルニ及ヒ方ニ此種ニ屬スルヲ
知レリ依テ之ヲ合觀スルニイワニル冠ト稱スル一部ハ
四箇ノ孔アリテ漏空ノ形ヲ爲シ器ホ香爐ノ蓋ノ如シ顔
部ハ兩眼殊ニ大キク殆ト其全部ヲ占ム且ツ眼中横サマ
ニ一線ヲ畫シタルハ眠リタル姿ニ似タリ其他身軀四支
勝展シ且四支ノ端ヲ括リタル形アリ宛モゴム人形ニ息
ヲ吹入レタルカ如シ必竟甲冑ヲ着タル姿ナルカ將テ滑
水衣ナルカ抑モ神像鬼形ノ類ナル歟我其何物タルヲ準
擬シ能ハサルナリ義虫氏ノ齎セシ中ニ同國二ノ戸郡福
岡縣ノ在方ヨリ出タル者アリ胸部以上ヲ存セル者ナル
カ亦此土偶ト同種ナリ亦以テ古ノ蝦夷人カ弘ク用ヒシ
者ナルコトヲ知ルヘシ

雜 記

○武藏多摩郡大澤村古穴 予頃日養病ノ爲近縣逍遙ノ次
武州多摩郡(神奈川縣下)大澤村ノ古穴ヲ訪ヘリ概略左
ノ如シ
近年此古穴ヲ發見シタルハ現今當村ノ箕輪安太郎等ナリ
予即安太郎ト談話シ其古穴ヲ誘引セシテ一見セリ

瓶ヶ岡土偶圖解

七七